

覚満川 (所要時間60分)

覚満川に下りて、遡上する淡水魚を捕獲し、透明容器に入れて観察する。



【講話】放流されたものが多いというコイ、フナ、ニジマス、ワカサギの話。

【観察】イワナの稚魚、ヨシノボリ、フナやウグイの稚魚など。

(ねらい) 覚満川の観察を通して、魚の生態について知ることができるようになる。

**指導体制** : 指導者2名(グループ学年への指示、指導、時間の計時)

指導助手5名(児童の安全確保、児童の質問に対応、指導者の補助)

に対し **対象人数** : 30～35名

**準備** : たも網、筆記用具、メモ、イチゴの空き箱15個

**留意点** : 五感を活用した活動になるように配慮する。

捕獲した魚類は、痛めないように観察をし、最後にリリースする。

**プログラムの関連性** :

小学校学習指導要領

理科、内容B 生命・地球

**3年(2)身近な自然の観察** 身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、色、形、大きさなどの姿が違うこと。

イ 生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること。

**4年(2)季節と生物** 身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

イ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

**6年(3)生物と環境** 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。

イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。